

第 24 回 獨協大学全国高校生 英語スピーチコンテスト

DOKKYO UNIVERSITY'S 24th ALL JAPAN HIGH SCHOOL ENGLISH SPEECH CONTEST

平成 24 年 10 月 7 日（日）開催【本学オープンキャンパス同時開催】

〈個人賞〉

1 位	獨協大学学長賞	表彰状 副賞
2 位	外国語学部長賞	表彰状 副賞
3 位	英語学科・交流文化学科 学科長賞	表彰状 副賞
4 位	日本英語検定協会賞	表彰状 副賞
5 位	獨協大学同窓会賞	表彰状 副賞
上位 5 位には毎日ウィークリー賞として表彰杯が贈られます		
特別賞	丸善賞	表彰杯 副賞
	テレ玉賞	表彰杯 副賞
	アルク教育社賞	表彰杯 副賞
入 賞		本選出場者全員に表彰状、参加賞を贈呈

第 23 回全国高校生英語スピーチコンテスト審査委員長
獨協大学外国語学部英語学科教授 John N. Wendel

We were deeply impressed with the speeches and very pleased with the results of the 23rd All Japan English Speech Contest! While the range of topics was not as broad as in previous years, the participants delivered their speeches with a passion and energy that could only have come from a heart-felt conviction in the positions each of the participants presented. We have come to expect a high standard in this competition and we were not in the least disappointed.

At the same time, we would like to offer the participants some advice for improving their speeches in the future. It is not enough merely to give your opinion on some issue, no matter how eloquently you are able to express yourself. You must support your position with relevant facts, figures, or other authoritative sources. This has to be done in a way that both convinces the audience of the veracity of your position and wins the audience over with the force of your argument. A second bit of advice concerns the paper text of your speech. Many participants brought their text to the podium and referred to the text during their performances. Doing so breaks the flow and rhythm of the speech, and distracts the audience's attention away from the impact of the performance. We strongly encourage you to come to the podium fully prepared and without your text.

In closing, we wish not only to congratulate the participants on their success in this year's speech contest, but also we would like to extend our appreciation to the many individuals who encouraged and otherwise supported the participants: the teachers, trainers, friends, and of course the parents. You all share some measure of the success that each of the participants won in this year's competition.

獨協大学学長賞

中田 彩子さん

千葉県

千葉県立成田国際高等学校 3 年

このスピーチコンテストは、私にとってすごく貴重な体験でした。たくさんの方の前で自分の意見を英語で主張することは、とても難しいことでしたが、周りにいる友達、先生、そして家族が応援してくれたおかげで頑張ることができました。スピーチは、ただ人前で話すのではなく、顔・体・声を使って聞き手の心を動かすことができます。ぜひ、より多くの高校生にこのスピーチコンテストを通して、人に想いを伝えられる達成感・感動を味わってほしいです。

主催 獨協大学外国語学部

後援（申請中）

- 文部科学省
- 全国都道府県教育委員会連合会
- 埼玉県教育委員会
- 草加市教育委員会
- (財) 日本英語検定協会
- 毎日新聞社
毎日デイリーニュース
毎日ウィークリー
- The Japan Times
- NHK さいたま放送局

協賛（申請中）

- (株) JTB 法人東京
- 丸善 (株)
- テレ玉
- (株) アルク教育社
- シャープシステムプロダクト (株)
- 獨協大学同窓会

応 募 要 項

■趣旨

国際社会に巣立っていく若人に「英語」を使って自分の考えを発表する場を設け、高校生の英語コミュニケーション能力の向上並びに高等学校の英語教育推進の一助となることを目的とします。

■応募資格

日本の高等学校に在学し、英語を母語としない高校生。ただし、過去においてこのコンテストで1位、2位を受賞した方を除きます。

■応募期間

平成24年6月18日(月)～6月29日(金) 必着

■スピーチについて

課題「私の主張」(テーマは自由)

スピーチは4分から5分とし、4分に満たない場合及び5分を超過した場合は減点となります。

スピーチは未発表のものに限ります(他のコンテスト等で使用したテーマ又はタイトルによるスピーチも、審査の対象外とします。不明な点はお問合せください。)

スピーチは完成原稿を提出してください。なお、提出された原稿は、本選に出場された場合には、本選終了後に発行するスピーチ集等に掲載する予定です。

■応募方法 (熟読してください。)

次の3点を郵送又は宅配便にてお送りください。

①所定の応募用紙

- ・コピー利用可。

※「獨協大学英語スピーチ」のネット検索でも入手できます。

②スピーチ原稿(英文)

- ・「スピーチ原稿記入例」を参考に作成してください。

③スピーチ(4分以上5分以内)を録音したカセットテープ又はMD

- ・ノーマルスピードで録音し、提出前に必ず録音状態を確認してください。
- ・スピーチの録音は冒頭に氏名・高校名を言ってからスピーチを吹き込んでください。
- ・1本のテープにつき1名の録音としてください。
- ・録音したものは誤消去防止の処置をしてください。
- ・録音した本体とケースには、必ず氏名、高校名を明記してください。
- ・カセットテープは、巻き戻して頭出しをして、MDは、必ずSPモードで録音し、応募してください。

※応募作品・媒体は返却しませんので、予めご了承ください。

※応募されたスピーチ原稿の著作権は、主催者に帰属します。

■スピーチ原稿記入例

- ・スピーチ原稿は、A4サイズ(210mm×297mm)の白地、無地の用紙にパソコンで作成してください。
- ・原稿が複数枚になる場合、原稿下部中央にページ数をふり、クリップで留めてください(ホチキス留めはしないください)。

演題(英字)を記入する

My Friend

高校名(英字)を記入する

Dokkyo Tarou
Dokkyo University High School

Two years ago, when I was in ninth grade, one of my classmates, Sarah, gave a speech about cancer and chemotherapy.

氏名(英字)を記入する

■テーマ参考例

広く国際的な問題から身近な自分自身の問題にいたるテーマ参考例を次に示しますが、これに限定されるものではありません。個人の体験談で終わるのではなく、そこから社会的な問題を提起し、改善につながる意見を主張することがポイントです。

◎国際関係

日本の国際貢献
世界の貧困問題
地球環境問題
日本のODA

◎地域社会

身近なエコ対策
ボランティア活動
災害対策
多民族共生

◎自分自身

私にとっての家族とは
私の友情論
私が望む職業
読書と私

◎学校教育

有意義な学校生活とは
大学への期待
校則は必要か
いじめ

◎政治・経済・社会

日本の将来と政治
少子高齢化社会
インターネットの可能性
民主主義とは

■本学公募制推薦入試の出願資格を授与

1次選考通過者及び本選出場者には、本学指定学科の公募制推薦入試等の出願資格を授与します。詳しくは本学案内誌『Wissenschaft(ヴィッセンシャフト)2013』をご覧ください。

※『Wissenschaft(ヴィッセンシャフト)2013』は平成24年5月中旬発行予定です。

■予選審査について

録音されたスピーチ及びスピーチ原稿により、1次選考と2次選考を行います。

本学外国人教員による1次選考後、1次選考通過者を対象に、日本人を含む本学教員による2次選考が行われ、15名前後の本選出場者を決定します。

審査項目は1次・2次とも同じものになります。

審査項目(昨年度参考例)

《English[英語](45%)》

- ・文法
- ・発音、抑揚、明瞭さ
- ・流暢さ

《Contents[内容](30%)》

- ・トピックの適切さ
- ・スピーチの構成
- ・結論(要点がまとめられているか、記憶に残るような終わり方か)

《General impression[全体的な印象](25%)》

※予選審査項目については変更する場合があります。

■予選審査結果

予選審査結果は、審査用紙のコピーとともに9月上旬までに応募者全員に通知します。応募要項に指導教員名が記入されている場合は、学校宛にも結果を通知します。

■本選出場者について

本選出場決定者には、7月下旬までに電話連絡いたしますので、応募要項の電話番号欄は必ずご記入ください。

本選出場者には、本学までの交通費（学割適用）を支給し、遠方からの参加者には宿泊費を補助（本学指定宿舎に限る）しています。また、8月下旬頃までに、次の書類を提出していただきます。

- ①スピーチ原稿の電子データ(Windows版Wordで作成し、所定のE-mailに添付して送付)
- ②スピーチの日本語要約(300字程度)
- ③本選出場者申請書(交通費申請、宿泊費補助申請等含)
- ④誓約書(応募されたスピーチが未発表のものであるという誓約書。応募者、応募者の保護者、学校長、指導教諭の連署となっています。)

■本選について

日時 平成24年10月7日(日) 12:00~

会場 獨協大学内(入場自由・無料)

- 本選規則
- ①スピーチは4分以上5分以内とし、4分に満たない場合及び5分を超過した場合は減点とします。
 - ②予選審査のスピーチと内容が異なる場合は失格となります。
 - ③スピーチ後に、スピーチ内容に関する英語での質疑応答があります。

本選審査基準 話しぶり(Delivery)

内容(Contents)

質疑応答(Questions & Answers)

全体的な印象(General impression)

※本選審査基準については変更する場合があります。

表彰 「個人賞」のほかに上位5位入賞者の学校には「学校賞」として教育機器を贈呈します。また、高校生に対する英語スピーチ教育を熱心に実践し、本スピーチコンテストに積極的に参加いただいた学校には、「スピーチ教育奨励賞」を授与します。

<昨年度学校賞ほか>

賞		副賞
1位	シャープ賞	液晶テレビ「AQUOS」20型
2位	シャープ賞	液晶テレビ「AQUOS」20型
3位	英語学科・交流文化学科学科長賞	フォトフレーム
4位	日本英語検定協会賞	デジタルカメラ
5位	獨協大学同窓会賞	ICレコーダー
スピーチ教育奨励賞		ICレコーダー

■引率教員・スピーチ教育奨励賞受賞校教員の交通費補助

本選出場者に引率する高校の教諭及びスピーチ教育奨励賞受賞校から表彰式に出席のため来学する教諭には、本学規程により交通費を支給します。ただし、1校につき1名の教諭とします。

■【重要】2013年度(第25回)の本コンテストに関して

2013年度(第25回)のコンテストの実施からは、第25回目を記念して、「スピーチコンテスト」から「プレゼンコンテスト」に変更予定です。

■第1位受賞校一覧

年度	回	第1位受賞校	
1989	1	群馬県	太田女子高等学校
		東京都	お茶の水女子大学附属高等学校
1990	2	岡山県	総社南高等学校
		東京都	桜蔭高等学校
1991	3	愛知県	桜丘高等学校
		愛知県	名東高等学校
1992	4	静岡県	静岡雙葉高等学校
		愛知県	桜丘高等学校
1993	5	東京都	学習院女子高等学校
1994	6	神奈川県	清泉女学院高等学校
1995	7	神奈川県	慶應義塾湘南藤沢高等部
1996	8	大分県	大分東明高等学校
1997	9	山梨県	山梨英和高等部
1998	10	埼玉県	春日部共栄高等学校
1999	11	神奈川県	慶應義塾湘南藤沢高等部
2000	12	神奈川県	横浜雙葉高等学校
2001	13	神奈川県	慶應義塾湘南藤沢高等部
2002	14	東京都	東京学芸大学教育学部附属高等学校
2003	15	京都府	同志社女子高等学校
2004	16	東京都	玉川聖学院高等学校
2005	17	神奈川県	外語短期大学付属高等学校
2006	18	東京都	玉川聖学院高等学校
2007	19	富山県	富山国際大学附属高等学校
2008	20	北海道	札幌聖心女子学院高等学校
2009	21	東京都	筑波大学附属高等学校
2010	22	沖縄県	沖縄尚学高等学校
2011	23	千葉県	成田国際高等学校

問合せ・応募先

獨協大学

「全国高校生英語スピーチコンテスト」実行委員会

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1

TEL: 048-946-1715 FAX: 048-943-3160

E-mail: kouhou@stf.dokkyo.ac.jp

『Wissenschaft(グイッセンシャフト)2012』のご請求は

獨協大学 入試課

TEL: 048-946-1900 FAX: 048-943-1320

※『Wissenschaft(グイッセンシャフト)2013』は平成24年5月中旬発行予定です。

